

公表

事業所における自己評価結果

事業所名						公表日	2026年 3月 31日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法定どおりのスペースを確保している。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		法定以上の人員を配置している。また職員は、教師としての実務経験者や心理士資格をもっている者が中心となって療育している。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		車いす等が必要な身体に障害がある利用者はいないが、出来る限りバリアフリー化をしている。水回りは構造上一段高くなっている。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日、始業前と終業後に、教室や廊下、便所、水場の清掃を行っている。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		教室とは別に相談室を設けており、子どもにクールダウンが必要な場合は利用するようにしている。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎日、始業前ミーティングを行い、当日の活動について確認している。終業後、職員室でその日の子どもたちの様子を含めたミーティングをひらき、次の日活動に活かすようにしている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		連絡帳アプリを通じて、保護者から意見を発信できるようにしている。理不尽な要求以外は、出来るだけ対応するようにしている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員室内で情報交換を密にしており、意見交換を積極的に行っている。必要であれば職員回覧板を作成し、全員に周知するようにしている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		弁護士からの先生による評価を受けている。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		様々な資格取得のためや研修会への参加を推奨しており、費用援助制度を設けている。			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		毎月、20日までに次月の療育プログラムを保護者に公表している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		保護者からの聞き取りや文書での情報をもとに、多くの先生が子どもたちと関わり、児発管に情報を提供しアセスメントするようにしている。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		保護者からの聞き取りや文書での情報をもとに、多くの先生が子どもたちと関わり、児発管に情報を提供しアセスメントするようにしている。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員間で共有され、子どもの支援に活かすようにしている。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○					
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		児発管たちに任せきりにするのではなく、職員全員から子どもたちに対する情報を収集し、意見を聞きながら、子ども家庭庁が定めた5領域を中心に支援計画を作成している。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		行っている。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		毎日違うプログラムを行うために職員全員が自己研鑽し、教材やテーマについて研究している。			

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		基本的には集団を中心とした療育活動を行っている。ただ子どもの能力差を考え、認知行動トレーニングについては小集団、学習活動については個別と使い分けるようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		行っている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		行っている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎日の支援記録をはじめ記入すべきものは必ず記入するようにしている。またHPに当日の療育支援活動の様子を必ずUPするようにしている。	
	23	定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		日常生活の充実と自立支援のための活動を軸に、その他のものが含まれる療育プログラムを作成し、実践している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		療育活動の内容にある程度の幅をもたせ、子どもができる範囲で頑張れるように工夫している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児発管と教室長が主に出席するようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		近隣の小児科医と連携している。また知り合いの心療内科医に助言を求めることもある。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		こちらから声掛けはするようにしているが、学童クラブからのレスポンスが悪い場合もあり、度々、お願いをしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要と判断した場合は、連絡を取るようにしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		現在まで、卒業生は一人である。中学校から情報提供の依頼があれば活動記録の提出はできるが、ご家族が希望されていない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		以前は行っていたが、あまり協力的では無かったので今は機会を設けていない。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		学童クラブのなかには、子どもの安全性が担保できないところもあるため交流活動は行っていない。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		参加していない	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳アプリ、送迎時のフィードバックを中心に丁寧に説明するようにしている。また、療育の様子は毎日ブログにあげ、子どもた	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		一般的な問題に対しては、対処法の一例をブログにあげている。毎日違う療育プログラムや専門的支援を行っているために、ペアレントトレーニングをする時間的余裕がない。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に説明している	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	保護者の方からの要望が少ないため行っていない。兄弟で利用されている方は、教室をわける場合と一緒に活動してもらう場合とに分けてプログラムの特徴に合わせて行うようにしている。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		療育活動の様子はHPのブログに、毎日、掲示している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	町内会には属しているが、地域の人たちの中には、偏見や差別意識を持たれている方もおられるので、積極的に地域と関わっていない。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		保護者には契約時に説明し、配布している。 職員室には、より細かいマニュアルを作成し共に職員の目のつくところに備えている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		3ヶ月～4ヶ月に1回のペースで災害時に備えての避難訓練を行っている。その様子はブログにも掲載している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		保護者から細かく聞き取りを行っている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者から細かく聞き取りを行っている	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		AEDを常設している。年に1、2回心肺蘇生法やAEDの使い方などを消防局の方を招いて講習を受けている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ミーティングにおいて、職員間で共有し、再発防止に取り組んでいる。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		横浜市が作成した虐待防止のガイドラインに則り、適切な指導が行われるように注意喚起をしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		現在、拘束が必要な子どもは在籍していないが、職員に対しては横浜市が作成した身体拘束のガイドラインに則り、切迫性、非代替性、一時性の3つの要件については説明している。		